

# 第34期第1回京都市社会教育委員会議の模様を マナビィがレポート！



令和元年8月8日（木）京都アスニーで、第34期京都市社会教育委員会議の1回目となる会議が開催されました。初回ということで、自己紹介や今後の会議の進め方についての議論がされました。会議の模様をマナビィがレポートします！

## ■ 出席委員（17名のうち11名） ※五十音順

石川 一郎 委員, 大澤 彰久 委員, 櫻井 寿美 委員, 佐竹美都子 委員,  
田村 毬絵 委員, 豊田まゆみ 委員, 廣岡 和晃 委員, 本郷 真紹 委員,  
桎木 良子 委員, 森 清顕 委員, 吉川左紀子 委員

## 第34期第1回社会教育委員会議次第

- 第34期委員自己紹介 [資料1](#)
- 委員の職務・会議規則について [資料2・3](#)
- 議長・副議長の選出
  
- 開 会
- 1 議 事
  - (1) 会議の公開について [資料4](#)
  - (2) 京（みやこ）まナビミーティングについて [資料5](#)
  - (3) 第34期の審議テーマ等について [資料6](#)
  - (4) 第61回全国社会教育研究大会兵庫大会について [資料7](#)
- 2 報 告
  - (1) 京（みやこ）まナビミーティングについて（既実施分） [資料8](#)
  - (2) 京（みやこ）まナビニュースレターについて [資料9](#)
  - (3) 令和元年度 指定都市社会教育委員連絡協議会（名古屋市）について [資料10](#)
- 3 主催事業及び刊行物の案内
- 閉 会

## ■ 在田 正秀 教育長の挨拶

## ■ 門川 大作 市長のメッセージを披露



## ■ 第34期委員の自己紹介

### ○ 石川 一郎 委員（京都新聞社論説委員長）

新任でございます。京都新聞論説委員長の石川です。新聞社に入って30年、何か特別な専門があるという訳ではありませんが、素人に近い感覚で意見を述べていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



### ○ 大澤 彰久 委員（平成30年度京都市PTA連絡協議会会長）



私も新任で平成30年度京都市PTA連絡協議会の会長をしております。今年度は引続き平成31年度京都市PTA連絡協議会副会長を務め、安朱小学校でPTA会長を務めております。みなさまとともに子どもたちの育みについて考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### ○ 櫻井 寿美 委員（市民公募委員）



市民公募で応募させて頂き、務めさせていただきます。市民目線からの発言をしていけたらと思います。また、高齢者の転倒予防は自分自身の専門として学会などで発表させていただいております。わからない点が多いですのでまた教えていただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ○ 佐竹 美都子 委員（株式会社西陣坐佐織代表取締役、アテネオリンピックセーリング競技日本代表）



新任で委員をさせていただくことになりました。私自身は2004年のアテネオリンピックのセーリング競技で選手として代表を務めさせていただきました。現在は引退後、家業の西陣織の帯の制作をしており、ものづくりに携わらせていただいております。精一杯、京都市のこれからについて考えてまいりますのでよろしくお願いいたします。

○ 田村 穂絵 委員（市民公募委員）

現在は同志社大学大学院の社会学研究科に所属しています。研究は学校や生活で生きづらさを抱えている子どもたちへの支援や生きやすさを考えて研究をしています。



○ 豊田 まゆみ 委員（京都市地域女性連合会常任委員）



京都市地域女性会常任委員の豊田です。30年間教職に就いていました。退職後、地域や女性会からお声がかかりまして、場違いかなと思いつつ、現在に至っております。社会教育委員会議についても、そうそうたるメンバーの中で自分の力をどれだけ発揮できるかわかりませんが、自分自身が勉強させていただくつもりです。よろしく願いいたします。

○ 廣岡 和晃 委員（日本労働組合総連合会京都府連合会会長）

日本労働組合総連合会京都府連合会会長をしております。前任は橋元会長が委員を務めておりましたが、私が引き継ぎ、新任委員として務めさせていただきます。私は出身がパナソニックでして、現在、労働組合の会長もしており、労働組合の立場からお話しさせていただこうと思います。また、連合組合の立場から同志社大学、京都女子大学、花園大学の3つの大学で労働法等、就職前の学生に講義をしております。学生さんの生の声を生涯学習に結び付けることができれば良いと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



○ 本郷 真紹 委員（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）

第33期から務めさせていただいております。立命館大学に勤務しております。専門は日本古代史です。京都では学生時代に15年ほど吉田、北白川界隈でお世話になりました。立命館に赴任して24年になります。私はいろいろな角度から、半世紀以上に渡り、京都にお世話になっておりますので、住まいは大阪ですが、いろいろ教えていただきたいと思っております。



○ 榎木 良子 委員（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）



現在で2期目になります。同志社大学日本語・日本文化教育センターで留学生と日本人学生に着物の講義をさせていただいています。また、母校でもある京都市立銅駝美術工芸高校では今年で15年目になりますが、浴衣を通して着物の文化を伝えるという授業をしております。大人の方はもちろんのこと、なるべく若い方に着物の魅力を発信する活動をしております。よろしくお願いいたします。

○ 森 清顕 委員（清水寺執事補，上智大学グリーンケア研究所非常勤講師）



よろしくお願いいたします。普段は清水寺で僧侶として、御祈祷や会議から、溝掃除といった雑用もしております。また、JRの列車脱線事故の教訓から生まれました上智大学のグリーンケア研究所で「悲嘆」に寄り添う人材の育成や、立命館大学歴史都市防災研究所では文化財を守る立場で携わらせていただいております。前期から委員を務めておりますが、まちづくりは、これから切実な問題が起ってくる事が予想され、より深いテーマであると思います。温かい議論ができればと思っております。よろしくおねがいいたします。

○ 吉川 左紀子 委員（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

京都大学に2007年にできました、こころの未来研究センターに勤めております。専門は心理学で出身は京大の教育学研究科で教育学の勉強をしてきたはずですが、実は学生時代は河合隼雄先生の臨床心理学等の心理学に傾倒していました。社会教育に対しても社会教育委員を務めるにあたって勉強を始めたぐらいですが、今期もよろしくお願いいたします。



今回御欠席の

稲垣 恭子 委員（京都大学大学院教育研究科長）

片山 九郎右衛門 委員（観世流能楽師）

狩野 茂 委員（京都市小学校長会理事，京都市立七条小学校長）

鈴鹿 可奈子 委員（株式会社聖護院ハッ橋総本店専務取締役）

園部 晋吾 委員（NPO 法人日本料理アカデミー地域食育委員会委員長，山ばな平八茶屋若主人）

安成 哲三 委員（総合地球環境学研究所所長）

には、次回以降の御出席時に自己紹介をしていただく予定です。

## ■ 委員の職務・会議規則等について

委員の職務・定数・任期及び会議規則等について事務局から説明がありました。

## ■ 議長・副議長の選出

議長に吉川 左紀子 委員，副議長に本郷 真紹 委員を，との推薦があり，全会一致で決定しました。

### ○ 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

4期8年と自分でもびっくりしております。先ほども申しましたが教育学は横目で見ながら大学を卒業し，社会教育の委員になりましてから，京都市で様々な社会教育の取組が長く進められていることを改めて知りまして本当に勉強になったと思っております。

30，40年前の私が学生の頃，社会教育は学校教育の横にある教育の仕組みという位置づけだったと思います。これから「人生80年90年」となってきました時に学校教育よりも生涯教育，社会教育という仕組みに私達が触れる期間がずっと長くなるとしみじみ感じております。

社会教育は学校教育と違って年齢層が広く，自由度が高いと思います。選ぶ選ばれる形の中で自分の人生を豊かにし，本当に大事な要素になっていく，これからますます重要になると思います。京都市という長い歴史ある都市の中で社会教育をどうやって充実させていくか，これから34期の中で自由活発に意見を交わしながら事務局の方に意見をくみとっていただいて，これからの京都市の社会教育に活かしていただければと思っております。

### ○ 本郷 真紹 副議長（学校法人立命館理事補佐，立命館大学文学部教授）

先ほど申しましたように日本史が専門なので，その御縁でいろいろなところで，とりわけ中高齢の方にお話しする機会もあり，4月にもアスニーで講演させていただきました。4，5回はお話しさせていただいております。その観点で社会教育についても少なからず関心を持っておりますのでいろいろ勉強させていただきたいと思っております。皆様の意見を頂戴いたしまして考えていきたいと思っております。

## ■ 開会

### ■ 議事一 会議の公開について

会議は原則として公開し，市民の傍聴を認めること，また，会議の摘録を公開することについて，合意しました。

### ■ 議事二 京（みやこ）まなびミーティングについて

市民の皆様には生涯学習の機会を提供するとともに，生涯学習のまちづくりを進める機運を高める一環として，社会教育委員による講演，研修，授業等を行う「京（みやこ）まなびミーティング」を市内各所で実施しています。今期も引続き実施していくことで合意しました。

これまでに実施したミーティングのレポートはこちらから↓

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/category/180-8-2-0-0-0-0-0-0-0.html>



### ■ 議事一3 第34期の審議テーマ等について

#### ○ 事務局（吉川 生涯学習推進課長）

京都市全体の様々な政策を進めるうえでの基本計画が「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン」（計画期間：平成23年度から10年間）である。社会教育・生涯学習もその一部として位置づけられており、この基本計画を基本指針として、様々な取組を進めている。第34期の任期が計画期間最後の2年と重なるため、「『はばたけ未来へ！京プラン』結びの2年」として、計画の総括として各種事業を着実に実施し続けつつ進捗状況の確認と点検をし、次の5年間に繋げていきたいと考えている。

特に柱となるテーマとしては「学校を核とした地域協働」を挙げたい。本市は全国に先駆けて地域と共に学校づくりを進めているが、これはもちろん「はばたけ未来へ！京プラン」の方向性とも合致するものである。

また、第34期では、委員の皆様にご議論いただく時間をしっかり確保し、自由な意見交換を活発にさせていただきたいと考えている。

委員の皆様からも具体的な審議テーマ、視点等があれば御意見をいただきたい。

#### ○ 本郷 真紹 副議長（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）

前回（33期第8回）も申しましたが、学校を核とした地域協働を考える時に、京都は市民の中に占める学生の割合が大きく、その「学生力」を何かに活かさないかと考えています。他の市町村では、積極的に取り組んでいる所も多く、自治会と学生とが連携して地域の子どもたちへの指導や、様々な体験活動のサポートをしているケースがあります。これは子どもたちだけでなく、学生にとってもフィールドワークとして、大きな意味を持っています。そのことが自身の経験になると同時に、学生には市民の1人としての自覚を持たせることができる。合わせて学生が社会を考える、非常に重要な契機にもなるということでお互い良い面があると思います。京都は大学が多いので、大学コンソーシアム京都等の機関を通じて何かしらの形で枠組みを出さないと、なかなか一般に持ちかけてもすんなりと自発的に集めるのは難しいと思いますので、その辺りの仕組みを検討していけたらと思います。

#### ○ 大澤 彰久 委員（平成30年度京都市PTA連絡協議会会長）

参考になるかはわかりませんが、私が安朱小学校のPTAで行っている取組で安朱地域の保育園・幼稚園・小・中・高・大学、全てを絡めて小学校で授業をしてもらっています。例えば、小学校の校内作品展に合わせて、幼稚園保育園の園児や地域の方に作品を出展していただき、地域全体の作品展を実施しています。安祥寺中学生には本の読み聞かせに来てもらい、洛東高校の生徒には英語のワークショップをもらう。近くにある京都薬科大学の方に来てもらい薬の正しい飲み方について話をもらう。京都橘大学の学生さんにはAEDの講習をもらうなど、いろんな場面で講師をしていただいています。そして、その中に地域の方にも入ってもらって、共に学ぶということを安朱学区ではしています。

○ 榎木 良子 委員（同志社大学日本語・日本文化教育センター嘱託講師）

先日、京都教育懇話会に参加させていただいたのですが、その中で若いベンチャー企業が拠点を京都に移しているという話がありました。今は東京一極集中ですが京都に移してくる理由として、京都は非常にコンパクトなまちで歴史もあるいろいろな資源があるからでした。課題としてはせっかく京都には大学が多く学生が多いのに接点が無いとおっしゃっていました。東京では毎日のようにどこかで企業が勉強会をして高校生、大学生と作ったり考えたりする機会を持っている。そういう意味で京都は勉強会のような交流する機会がないとおっしゃっていて、結局は大きさを問わず良い企業が京都にたくさんあるにも関わらず大学生がみんな外に向いてしまう。東京に仕事を探しに行ったり大阪で仕事に就いたりしてしまい、もったいないというお話しをされていました。積極的に企業を大学生、高校生が知って一緒に何か学んでいく機会を提供するような仕組みを作っていくことが大事なのではないかと思いました。

○ 本郷 真紹 副議長（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）

体験型学習はとても大事になります。これまでは首都圏の利点として、情報がリアルタイムで得られることが挙げられ、そのことが、首都圏が政治経済の中心である大きな理由でした。これからAIの時代になってきますと、自宅にいてもすぐ情報が入りますから、それよりも自分でどれだけ体験して、その中で何が考えつくかということが大切になります。そういう意味でベンチャーを志す学生にとって、京都には首都圏にない良さがあると思いますので、その強みをどう活用するかを考えていく必要があるのではないかと思います。

○ 石川 一郎 委員（京都新聞社論説委員長）

新聞社で働いていますので、最近はネットでいろんな意見が飛び交うことを日常的に経験しておりますが、ネットによって考えが左右されやすい人が非常に増えていることを実感しています。学校を核にしたということですが特に若い世代の人たちがネットで飛び交う情報をどういう形で自分のものにしていくか、ネットとどういうふうに付き合っていくのかということを実態も含めて若い世代の方に聞いてみたいと思います。

○ 佐竹 美都子 委員（株式会社西陣坐佐織代表取締役、アテネオリンピックセーリング競技日本代表）

私自身もそうですが学校以外、例えばスポーツの場とかそういう違う場所に身を置くことで幅を広くして学ぶことも多くあると思います。興味のある人はどんな情報でも自ら探して行きますが、そうではない人達の裾野を広げるために、様々な切り口があると思いますが、スポーツ団体や学生、どういう団体にどういうネットワークの網を張っていくか、何かの形で誰かがひっかかるような仕組みづくりがすごく大事かと思います。してもらったことは大人になったら必ずするようになると思うので、できるだけ学校以外のいろんな人と関わる機会が増えるようなネットワークづくりを話し合っていけたらと思いました。

○ 豊田 まゆみ 委員（京都市地域女性連合会常任委員）

安朱小の話を聞き、全校種の人に関わっていてすごいと感じました。そこに至るまでに

核になっているのはPTAだと思います。女性会としては子どもたちに関わっていきいたいと思い、地域の行事に参加するなどしています。私の所属する檜原校区でも何かできることはないかと模索しており、特にPTAの取組が参考になると思います。女性会でもいろいろ考えていますがなかなか行動に移せないで佐竹委員がおっしゃったようにネットワークの作り方をみなさんと学べたら良いなと感じています。

○ 森 清顕 委員（清水寺執事補，上智大学グリーンケア研究所非常勤講師）

今、お話を伺いながら、子どもたちの学びの機会を増やすのも大事ですが、一番意識改革が必要なのは子育てしている親の世代ではないかと考えています。親世代にも意識が向くような仕組みやネットワーク形成、今の社会的な問題においてもそんなところにまで余裕は無いという人もいますし、このようなことも含めてどういう方向性に持って行けば良いか悩んでいます。

また、学生の力を育むということでは、大学コンソーシアム京都で世界遺産PBL科目という講座があります。これは、世界遺産である京都の17の社寺と城が協力のもと、世界遺産をフィールドとして学生が課題解決型の学習をするものです。上賀茂神社でしたら、祭に学生が参加し、学生が自ら計画を立てて進める。文化財防災等の課題を学生が見つめ、解決していく方法を自らが考えていくというような内容です。例えば火事があった時にどういうふうに知らせるかといったことを、フィールドワークを含めて、1年間かけて学んでいきます。学生も毎日、地域を歩いてどういう場所かを自分たちで考えたりします。このような経験をした学生がゆくゆくは社会に出て、地域に出ていく、家庭を持ったりしていく中でそういった経験が良い方向に働いてくれたらと思います。このような授業に参加させていただいて、これからの世代の人たちへのアプローチとして、時間はかかりますが1つの案だと感じております。

○ 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

私が子どもの時代は、親は教える人、子は学ぶ人のような役割分担があった気がするのですが、今は親も自ら学びながら子どもに学ばせ、また高齢になった親のことも考えなければなりません。中間の世代というか人生90年を3つに分けると30歳まで、60歳まで、90歳までのうち、真ん中の30年間がとても負担の多い大変な時期になっていると思います。その時にいろいろなネットワーク、社会教育の仕組みが支えにならないか。単に知識を吸収する学びではなく、毎日の暮らしの中に直接活かしていくような仕組みとしての生涯学習、社会教育。そういうようなものは京都にはたくさんのリソースがあるので如何にうまく活用するのが求められると思いました。

○ 廣岡 和晃 委員（日本労働組合総連合会京都府連合会会長）

学校を核とした地域協働、私は賛成です。人口減少がはなはだしく、これから学生の皆さんが減ってくるのは明らかです。10年後20年後の人口動態が見えてきている中、65歳、70歳まで働こうという話が出てきています。地域に本来、60歳定年で帰られていた人たちが、65歳まで70歳まで地域に戻って来ません。地域の方は70歳、80歳になっても若い人が来てくれずに、私たちが地域を守るのか、というようなことになるの

が事実だと思います。そういう意味では学校に地域の様々な人が集って地域の課題について話し合う機会が必要です。様々な学区の方が一堂に集まって意見を聞くのは知識を得る点でも良いと思います。近くの所を核として集まって地域の課題を様々な点で勉強していくのは生涯学習の点でも効果があると思います。

一方で生活の点で言うと、人が足りないので40歳、50歳、60歳の方も学び直すとなると今までのように多くは来ない。限られた中での学びになりますので、我々が企業体にも協力をお願いして社会貢献で仕事や学校を休めてとそういったところも支援していただいて、社会全体でやっていかないと、地域だけでやるには本当に限界がくると思います。私たちが社会に貢献できることはしっかりするべきであり、例えば町内会の役員をしているなら表彰する等しないと、誰もそういったことをしなくなると思います。あれもこれもはできませんけれども、是非、地域を核としてテーマを絞ったかたちで成功事例を作って伸ばしていければと思います。

#### ○ 田村 穂絵 委員（市民公募委員）

2つ思うことがあり、1つは話題に出ているように学生の活躍についてです。私は学校でボランティアをしています。夏休みのキャンプのボランティアを例にすると、短期、単発で関わることが多く夏休み等の長期休みだけの関係性になってしまい、熱意のある学生も多いのに少しもったいないと感じています。学生自身の大学との兼ね合いがあり長期ボランティアは難しいかもしれませんが、支援の必要な子どもは先生との支援関係がしんどくなってしまった時に逃げ場がないことがあります。週に1、2回でも良いので自分と話してくれる人がいるだけでも、彼らにとって良い関係、より強い支援関係ができるのではないかと思います。

もう1つはネットに関することです。学校で遅刻してきた子に「何してたん？」と聞くと「夜までネットゲームしていた。知らない人に民度が低いと怒られた。なんで怒られないとだめなの？」と言って、その児童自身がしばらく怒っていました。そうしたことにずっと捕らわれているのは、時間的にも無駄な事だと思いますし、私自身も経験がないので、それに対してどう関わっていくのか、どう解決していくのか、問題提起になるのですが、この場で知見を得ることができればと思っています。

#### ○ 櫻井 寿美 委員（市民公募委員）

先ほど大澤委員の意見を聞いていて地域レベルで様々な活動ができるようになるまで年数はかかると思いますが、どの地域にも参考になると思いました。少し話は変わりますが今、観光客が増えて嫌という意見もあり、1つはお互い理解ができていないことがあると思います。私達も観光客のことが理解できていたら心が広くなると思いますし、観光客も日本人を理解できると違う感情になるのではないかと思います。私も約10年前に4年間大学に実際通って、その当時は学生の中に入ると「こんなことを考えているんだ」と体験したことがあるので、地域の中にいろんな人が居ていろんな人の意見を聞く事が今、大切だと思いました。どのようにしていくかについては、社会課題の解決をテーマにしていくと皆、なんとかして良い社会にしていく考えを元々お持ちだと思いますのでよいのではないかと思います。

○ 事務局（稲葉 統括首席社会教育主事）

学校現場には、今、大きな課題がありまして、それは教職員の働き方改革です。テーマにもあるように、地域協働の観点から、地域と連携して、あるいは地域から協力を得て教育を充実していきたいという思いはものすごくあります。働き方改革と地域協働は、同じように進められるようで、実は相反した部分もあり、学校の管理職が困っています。今まで地域に開かれた学校として、たくさん地域の協力をいただいておりますが、協力から協働へ変えていく、地域と共にある学校に転換していくにはどうしていけばいいのか、その辺りについて、御意見いただければ有難いと思っております。

○ 事務局（春田 生涯学習部長）

先生方のお話を聞いていると教育委員会の所管の枠を超えた幅の広い議論を頂いております。私どもといたしましても教育と言うのは裾野が広く、様々な部局とも関連性が高くなっております。稲葉統括の話にあったように学校も時間的な余裕が無く、今後はマネジメントが難しい問題です。

また、学校を核にと申しましたが京都市は公民館が無いので各学校が公民館的な役割を果たしています。例えば、学校の余裕教室に、地域の方が活動できる「ふれあいサロン」というスペースを設けております。ただ、活動できる団体は自治連参加、ある程度社会的認知がある団体に限るといった制限がかけられており、どこかの団体に所属していないと、先日の議論にもあった、地域で学びたい、知りたい、やりたいという潜在的なニーズを満たす機会が得にくいという課題があります。

大学の話でもありましたが、各学区の小学校のこれからの在り方、地域のプラットフォームとしてどのような役割をするのか。京都市は特に学校が地域の基盤としての機能を持っていますが、これからは学校だけの力では無理ですので、どうしたら学校と社会教育が連携し、21世紀の学校教育を作っていくのか。皆様にも御協力いただきながら、支援いただく地域の方との協力のかたちを構築して、本郷先生がおっしゃっているように仕組みづくり、仕掛づくりを安定的にしていけるようお力添えをいただけたらと思っております。

○ 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

先ほどの田村委員の育成学級の子どもの支援に学生が関わることで学校の先生方にとっても良い出会いになるし、学生に教育の現場を知ってもらう機会にもなり、いろいろなプラスの面があると思います。それを頭で考えて組み合わせるのはとても難しく、実際にやりたいと思った人たちがやってみると意外に上手くいくようなこともあるのではないのでしょうか。田村委員の経験をできるだけ継続できるような仕組みを社会教育委員の中で提案していけたらと思います。日本全国、同じ問題を抱えながら悩んでいるところではないかと推測しますが、逆に1つ突破口が見つかりそれがモデルケースになっていろんな地域に広まっていくこととなります。それを活用できるような提案を社会教育委員会議の中から出せば良いと思います。

○ 事務局（戸田 生涯学習部 担当課長）

最近、自治会にも加入しない方々が増えており、PTA離れについても記事になったこ

とがあります。先ほどのお話の中で学生にも声をかけよう、学生の頃から子どもに関わることで意識が高まって地域の活動離れやPTA離れにも歯止めがかかる。学生の頃からそういう意識を持つ仕組みを作れると良いのではないかと思います。

○ 事務局（齊藤 施設運営課長）

私が担当している部署では学びたくて積極的に自発的に学ばれる方が多くいらっしゃいます。ただよく言われるのは、図書館でも登録者数が全市民の3割であることです。アスニーでの各講座が満席でも京都市全体で見たらどうかということが非常に気になります。需要の形態はまちまちですのでこういったサービスの提供をすれば関心を持っていただけるか非常に気になっています。自治会の構成員が少なくなっているとの話もありましたが気持ちがある人はどんな時代でも少なからずいらっしゃいます。そこに注目するのではなくて多様性と言いますか様々な考えを持たれた方が社会に関わっていけるのかとかを視点を持って一つ一つの事業をやっていけたらと思います。

○ 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

アスニーに来られる方は熱心な方が多くそこだけ見ると京都市の社会教育、生涯学習が充実しているように思いますが客観的に見ると京都市のどれぐらいの人が活発に利用しているのか、利用していない人はどういうところに居られてどういうところがブレーキになっているかを調べるのはとても大事なことです。

○ 本郷 真紹 副議長（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）

先ほど森委員がおっしゃったことで親の世代をどうにかしないといけない、1つははっきり申し上げて最近の文教政策は朝令暮改である。仕組みが短期間のうちにどんどん変えられてしまい、ついていけない。本来は学識経験者の方のお話を元に変えるとかあるいは教育の専門家の意見を聞くべきなのに、最近の教育改革は全部、政財界主導になってしまっている。例えば「生徒指導はこうしないとならない」、「学生はこうしないとならない」、「ゴールデンエイジはこう理解しないとけない」と一方通行のことばかりです。何故、彼らから学び取ろうとしないのか。リタイアされて経験豊富な方の成功体験よりも大事なものは失敗体験です。苦労したことというのは学生にとって、ものすごくヒントになる。学校を核として地域連携で双方向に話し合う場を作っていくのは社会教育で一番大事なことはないかと思います。

○ 佐竹 美都子 委員（株式会社西陣坐佐織代表取締役、アテネオリンピックセーリング競技日本代表）

着物の業界は凋落しておりまして10年前に3兆円あった規模が今2,600億ぐらいになっており西陣でも織屋さんが消え、着物を着る人が減っています。着物は「京都らしくて良いな、着てみたいな」とはなりますが、高い、着るのが難しい等ハードルがあり、実際にはなかなかそうはいかない。われわれ、着物を知ってもらうためにいろいろ物作りをはじめ広める活動を行ってはいるものの、結局人は、興味とかメリットでしか動かない。お金のメリット、おもしろい、楽できる、そういうメリットでしか動かないのです。商売のありかたは様々な形でやられているところはあると思いますが、違う角度でも手を差し伸べら

れるような環境を、あらゆる場面で整えないと難しいのかなとわれわれの業界を見ていると思います。

○ 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

最近、海外から来られた観光客の若い人たちが浴衣や着物を着たりして街中を歩いているのをよく見かけますが、私は良いなと思っています。若い人たちが気楽に和服での街歩きを楽しんでいて、そういう姿を京都は歓迎している。着物文化の敷居を低くして多くの人に楽しんでもらおうという姿勢は京都の良さだと思いますし、他ではなかなかできないことではないかなと思っています。高価な物を着ているわけではなく楽しみで着ている。そうした文化の在り方が新しい時代の流れになれば良いなと思います。多くの人達が気軽に参加するということの良い一例を見せてくれているような気がします。

社会教育についても、いろいろな面で敷居をもっと低くする工夫が必要かもしれません。たとえば、図書館や美術館、博物館に今まで一度も行ったことのない人がちょっと行ってみようかな、と思えるような機会をどうすれば作れるか。新しいアイデアが必要だと思います。

○ 大澤 彰久 委員（平成 30 年度京都市 PTA 連絡協議会会長）

委員の方の意見を聞いて共感できる意見が多くありました。佐竹委員がおっしゃったようにメリットが無いと人は動かない。私、PTA と町内会もしていますがメリットは何ですか？とよく言われます。メリットは目に見えることでない、地域防災、何かあった時のセーフティネットですよと言っても実感としてわかない。PTA と町内会に入らない人はたいがい役員をやりたいくないという方が多いです。役員をすることがメリットに受け取れない。興味の無い方にいかに伝えていくか、裾野を広げていくかが課題です。PTA でも教育講座とかやるのですが関心のある方はいつも同じで、来られないところに何か問題が起きたりする。情報が届けたいところに届かないことがあります。裾野を広げて興味が無い人に興味を持ってもらう取り組みが必要だと思います。子育て世代の意識改革もメリットがないから気が向かない、廣岡委員の話にもありましたように、なかなか働いている人、特に男性は PTA に来ない、仕事をしながら社会貢献に繋がっていることが見えてくれば、我々世代の男性も出てくるのですが、なかなか難しい。逆に何をしに行っているのかとなってしまうし社会全体の意識改革も必要だと思います。

○ 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

第 1 回の社会教育委員会議、地域協働というキーワードが一番この会議のなかで出ました。様々な角度から御意見も出ました。まとめとして第 3 4 期の 2 年は「学校を核とした地域協働」をテーマにみなさまから意見を伺いたいと思いますのでよろしくおねがいいたします。

#### ■ 議事一4 第61回全国社会教育研究大会兵庫大会について

- 事務局から
  - ・当研究大会は全国の社会教育委員や関係者が一堂に会して社会教育に対する研究発表を行う場である。
  - ・これからの社会教育を考えるうえで非常に参考になるものであるため、委員から1名参加いただきたい。議長とも相談のうえ対応させていただきたい。

#### ■ 報告一1 京（みやこ）まなびミーティングについて（既実施分）

- 事務局から
  - ・社会教育委員による「京（みやこ）まなびミーティング」ですがアスニーの人気講座「ゴールデンエイジアカデミー」とタイアップし、安成委員と吉川議長にご講演いただいた。
  - ・安成委員には、6月は環境月間ということで「地球環境問題と私たちへの生活への影響について」と題した講演をいただいた。
  - ・当日は、気温や水温のデータや氷河面積が減っている写真も交えながら、わかりやすくお話しを頂いた。
  - ・7月のゴールデンエイジは吉川議長に「こころ健やかに中高齢期を生きる」と題してお話しいただいた。
  - ・今後は、片山委員、柁木委員にご講演いただく予定。
- 吉川 左紀子 議長（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

こころ健やかに中高齢期を生きる、まさに私自身のテーマでもありまして私は今年65歳になりましたが、90歳まで生きるとしたらあと25年、どうしようと、中高齢期をどうやって健やかに生きていくためにと考えている中での講演でした。

認知症のケアでユマニチュードというフランスから入ってきたケアの技術があるので、それが心理学的に見ても良い方法だと思っており、そのお話しもしました。

#### ■ 報告一2 京（みやこ）まなびいニュースレターについて

- 事務局から
  - ・市民の学びのきっかけとして京都市の生涯学習情報をニュースレターとして発行している。
  - ・今回は、本郷委員に「平成から令和へ ～天皇の譲位に寄せて～」をご執筆いただいた。
- 本郷 真紹 副議長（学校法人立命館理事補佐、立命館大学文学部教授）

私は日本の古代史を専攻しておりますので、今年は天皇が生前譲位されたことにちなんでそういう事例が古代、どういう形で行われたかについて書かせていただきました。

日本は明治以来神仏分離で神社と寺院は全く別の組織として運営され、場合によっては競合的な意識を持たれているのですが、元々はそうではありません。

男性天皇として最初に生前譲位された聖武天皇は、お坊さんになりたいがために生前譲位されたという経緯があるということも知って頂いたら、これまで1100年間、神仏習合の時代を経てきた日本の特色がよくわかるのではないかと思います。

### ■ 報告一3 令和元年度 指定都市社会教育委員連絡協議会（名古屋市）について

#### ○ 事務局から

- ・指定都市社会教育委員連絡協議会は全国の政令指定都市の社会教育の取組に関して情報交換の場として毎年開催されている。
- ・通常なら社会教育委員から参加いただくところだが、第34期の改選後すぐの開催であったため、事務局から出席させていただいた。
- ・協議題として、京都市から「生涯学習評価制度の推進について」を提案し、生涯学習の成果の記録や顕彰の制度について、他都市ではどのような取組をされているかを聞かせていただいた。

### ■ 主催事業 及び 刊行物等の案内・説明

#### ○ 大澤 彰久 委員（平成30年度京都市PTA連絡協議会会長）

PTA しんぶんにありますように、今年度の活動テーマを「新しい時代の『新しいPTA』の創造」と決めました。

PTA活動に取り組むうえで3つの視点を設けております。①不易流行：守るものと変化への対応、②常識の再構築：楽しく前向きに、③今そこにある課題への対応：危機管理とリスク管理。

PTA活動では、前例主義にとらわれて、なかなか改革ができない、変えることができないのですが、今できるメンバー、環境でやりましょう、持続可能なPTAを続けていきたいと思いますという事でやっておりますし活動したいと思っております。

また、前年度薬物事案がありました。ネットで容易に大麻が手に入ってしまう状況があります。そこで、しっかりと状況を把握し、こういった問題が起こらないように、今年度は新しい時代の新しいPTAの創造ということで活動していきたいと思っております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

#### ○ 事務局から

- ・ICOM 世界大会が9月1日～7日まで日本で初めて京都で開催される。大会を記念し7月～9月まで府内のミュージアムでとっておきの特別なイベントが開催される。委員の皆様もこの機会にぜひミュージアムに親しんでいただきたい。
- ・また、京都南ロータリークラブから ICOM 大会を記念し、京都を訪れる国内外の方々に広く活用いただけるよう「京都市ミュージアムマップ&いざと言う時に役に立つ災害時支援マップ」を京都市に寄贈いただいた。非常に丁寧でわかりやすくなっているので是非ご活用いただきたい。
- ・社会教育委員会議において提言を受け、平日の夜19時以降に開始の講座「アスニーナイトプログラム」を開催する。
- ・アスニーコンサートは京都の企業、団体に協賛いただくことによって、手ごろな価格で本格的なコンサートを身近に楽しむことができると好評いただいている。
- ・京都はぐくみ憲章は子どもたちの健やかな成長のために大人としてどのような行動をすべきかを示した指針。
- ・GOGO 土曜塾では、大人みんなが先生ということで子どもたちが休みの時に体験できるイベントを紹介している。

■ 閉会（吉川議長）

■ 閉会挨拶（春田生涯学習部長）

■ 京都市平安京創生館見学（希望者）

会議後，希望者による「京都市平安京創生館（京都アスニー1階）」の見学を行いました。

